事務事業ID 0873

平成 22 年度 **事務事業マネジメントシート**

平成 22 年 4 月 16 日作成

単位

□

単位

活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称

イ 職員研修参加回数

ウ図書館情報提供回数

17.0 17.73 10 111170											
	事務事業名	図書館運営事業	□ 実施計画登載事業	□ 合	□ 合併建設計画登載事業						
	11年夕	曲もわふまざれし	車		予算科目						
政	政策名	豊かな心を育む人 0 6 :	事業期間			款	項	目	事業		
政策体系	施策名	2:5 生涯学習の推進	□ 単年度のみ								
系	基本事業名	生涯学習の推進位 0:1:	▼ 単年度繰返 (開始 昭和27)	年度~)	丰度~)						
	根拠法令	図書館法			01 10 05 05						
	部課名	企画政策部市立図書館			□ 期間限定複数年度]	
F.					[計画期間]						
厚	係 名	図書館	電話 内線	26-4478	年度 ~		年度			l.	
	担当者		全体計画欄の総投入								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 全体計画(期間限定複数年度の									年度の	み)	
		宮の運営に関する事業。			国原	主出支重	<u>.</u>				
_	Eな業務は、 Hの海末立図書の	京协議会太明准1 禾昌/红期	から図書館運営等に対して 総事源								
	へ加坡川立凶音の 意見を頂く。	店励議会を開催し、安貞(任期	から凶音昭建昌寺に対して	1 - 1 -	源 古	也方債					
		3専門的な知識等を習得する	ための職員	の研修参加。		投業人費	訳	その他			
		行や、市の広報、図書館のホ		と供する。			一般財源				
事	事業費は、図書館	協議会の運営費や職員の研			事業費	(,			0		
				구 싰	正規職員	従事人	数				
				田田田		業務時間					
				○ 費		計 (B)			0		
トータルコスト(A) + (B)									0		

1 現状把握の部(DO) (1) 事務事業の目的と指標

手段(主な活動)

前年度と同様。

前年度実績(前年度に行った主な活動)

・各種図書館職員専門研修等参加(延べ12回)

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

·図書館情報の提供(図書館だよりの発行、HP更新、東海新報定期掲載、TV放映等)

·大船渡市立図書館協議会開催(年2回)

図	図書館情報を必要とする人。							7	カ市の人口		人	
							7	キ 図書館利用	用登録者		人	
	意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)							2				
図	図書館のサービス、催事等の周知を図り、多くの人に図書館を利用してもらう。								\			
								及果指標	成度を表す指標)	単位		
										名称		
4	結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 社会教育機関として、市民の情報センターとしての役割を担う。							\	サ図書館資料	料の貸出冊数		₩
								\setminus	シ図書館の		人	
									ノ四目的の利用自奴			
								\	ス			
(2) 🖁	総	事業	業費・指標等の推移	3					<u> </u>			
					年度 単位	17年度 (実績)	18年度 (実績)	1	9年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (目標)
		財	国庫支出金		千円	0	0		0	0	0	0
=	事	酒	都道府県支出金		千 円	0	0		0	0	0	0
1	業	ద	地方債		千 円 千 円	0	0		0	0	0	0
投罩	貴	訳.	その他			0	0		0	0	0	0
入	一般的源					148	137		154	593	115	120
	学表貝巾(^^)			千円	148	137		154	593	115	120	
	人 正規職員従事人数 件 延べ業務時間			時間	1,800	1,800		1,800	1,800	1,800	1,800	
	費 人件費計 (B)			千円	7,200	7,200		7,200	7,200	7,200	7,200	
5	トータルコスト(A) + (B)			千円	7,348	7,337		7,200	7,793	7,315	7,320	
			1 777 -777 (19)			2	2		2	2	7,313	7,020
	活動指標					8	6	_	6	12	12	12
						46	87		83	120	110	120
	カ 対象指標 キ ク				人	43,209	42,575		42,158	41,684	41,334	42,000
					人	3,760	4,435		4,658	6,742	7,503	8,800
	成果指標 サ				m	122,806	116,729		113,815	132,817	205,579	210,000
					人	20,760	23,487		21,271	26,149	40,042	42,000
				ス								
						-	1/3 -				(大船	渡市)
											(· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

事務事業ID 0873 事務事業名 図書館運営事業

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

が公平・公正になっているか?

価

~この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?

昭和27年の図書館設置条例により図書館を設置。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか?

社会教育の一環である生涯学習活動の推進が進み、年々、利用者のニーズも多様化するもとで、地域を支える情報拠点として社会的存在意義が高まり重要性が増した。また、新施設(リアスホール)となったことで市民に注目され、「利用する施設」としての図書館の認知度が高まった。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか? 図書館の利用者より各種提供資料の充実、図書館サービス質の向上を要求されている。

2 評価の部(SEE)*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

	評価の部(SEE) ^ 原則は事後計	
	政策体系との整合性	□ 見直し余地がある
	この事務事業の目的は当市の政策体 系に結びつくか?意図することが結 果に結びついているか?	図書館機能の充実は、利用者の生涯学習の充実に直結するので、上位施策に結びついている。
目的妥	公共関与の妥当性	□ 見直し余地がある 【理由】 つ 3 改革·改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ▼ 妥当である 【理由】 つ
妥当性評価	なぜこの事業を当市が行わなければ ならないのか?税金を投入して、達 成する目的か?	公共財としての割合が高く、民間に代替がない。くわえて、社会教育機関として一定の水準を保つ必要があるため。
価	対象・意図の妥当性	□ 見直し余地がある 【理由】 つ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映■ 適切である 【理由】 つ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか?意図を 限定・拡充すべきか?	図書館のサービスは、市民全て対象とすることから、対象と意図は適切である。
	成果の向上余地	✓ 向上余地がある 【理由】 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映✓ 向上余地がない 【理由】 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	よりいっそう、 積極的に図書館から情報を発信(資料提供)することにより向上の余地がある。
有	廃止・休止の成果への影響	影響無 【理由】 → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映✓ 影響有 【その内容】 → ***********************************
効性評	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	教育機関として図書館の水準を維持することができず公平性も確保することが困難となる。
価	類似事業との統廃合・連携の 可能性	□ 他に手段がある つ (具体的な手段,事務事業)
	目的を達成するには,この事務事業 以外他に方法はないか?類似事業と の統廃合ができるか?類似事業との 連携を図ることにより、成果の向上 が期待できるか?	□ 統廃合・連携ができる 【理由】 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
		▼ 他に手段がない 【理由】
	事業費の削減余地	□ 削減余地がある 【理由】 つ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映□ 削減余地がない 【理由】 つ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率	成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	本事業は図書館業務における総務的な側面が強く、外部からの支援はなじまないと考える。また、事業費において も、最低限での設定としており、削減は難しい。
性評価	人件費(延べ業務時間)の削 減余地	▼ 削減余地がない 【理由】 つ
到	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより 正職員以外の職員や委託でできない か?(アウトソーシングなど)	リアスホール開館に際し、図書館と市民文化会館の職員は相互に兼務となったものの、図書館主務の職員は機構改革以前に比し1名減となっている状況であり、これ以上の削減は図書館自体の機能維持の障害となる可能性がある。
公平	受益機会·費用負担の適正 化余地	□ 見直し余地がある
· 性 評	事業の内容が一部の受益者に偏って いて不公平ではないか?受益者負担 がハエ・ハエになっているか?	図書館の利用条件は市民全てに公平であることから、受益の機会、費用の負担は適正である。

事務事業ID 0873	事務事業名 図書館運営事業								
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)									
(1) 1次評価者としての評価結		(2) 全体総括(振り返り、反省点)							
	■ 通切 ■ 見直し余地あり	図書館を運営するにあたり、全般的には妥当である。市民文化会館と事 務室を一体化し、職員も相互に兼務とすることで、運営の効率化を図って							
有効性	▼ 適切	いる。							
効率性	▼ 適切								
公平性	▼ 適切 □ 見直し余地あり								
(3) 次年度の方向性(改革改善	§案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休⊥								
	目的再設定 事業統合·連携 有効性改善 郊率性改善 2	左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「」を記入する。 公平性改善) (廃止・休止の場合は記入不要)							
事業のやり方改善 (有効性改善									
運営面については、事業費、延べ業務時間ともに最低限の投入量としているため、削減は難しいが、県図書 削減 維持 増加									
間間本でたりにIATKニIA い。	-U. AAMDWGHWIIII AACCCW								
		成維果持							
		低 下 × ×							
(5) 改革改善を実現する上で触	解決すべき課題とその解決策又は特記								
		記事が発音に依頼する分野を明確にし、委託できるものについては委託を進め							
	架整理等の定型業務を支援していただく。								
		(職 名) 原則として施策の主管課長 (氏 名)							
4 事務事業の2次評価結果	2次評価	者 図書館長							
(1) 1次評価結果の客観性と出	出来具合								
記述水準(1次評価の記述) による 記述不足でわかりにく	ろがある								
	評価を行った後に総合的に判断して選								
□ 客観性を欠いておりま □ 一部に客観性を欠い	評価が偏っている(事務事業の問題点、 たところがある	、課題が認識されてない)							
	ている(事務事業の問題点、課題が認識	識されている)							
(2) 2次評価者としての評価結	果	(3) 評価結果の根拠と理由							
目的妥当性	▼ 適切 □ 見直し余地あり	図書館を運営するにあたり、全般的には妥当である。市民文化会館と事							
有効性	▼ 適切 □ 見直し余地あり	務室を一体化し、職員も相互に兼務とすることで、運営の効率化を図って いるが、広報宣伝におけるホームページの運用、事務面での統合がなされ							
効率性	□ 適切 🔽 見直し余地あり	ない面があり、今後の検討が必要である。							
公平性	▼ 適切 □ 見直し余地あり								
 (4) 次年度の方向性(改革改善	 喜案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休⊥	 止·現状維持は重複不可) (5) 改革·改善による期待成果							
	目的再設定 軍業統合・連携	左記(4)により期待できる成果について該当欄に「」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「」で記入する。							
i		公平性改善) (廃止・休止の場合は記入不要)							
(上記方向性に対する具体的ならに、市民ニーズに対応したt	的な内容) 🔨 🖊 サービスに努めるとともに、継続して良好な事	現務事業を実施する。 コスト 削減 維持 増加							
		成維							
<u></u>		Image: second control of the control							
		·							
(1)行政経営推進会議等での指	指摘事項								